NIE実践報告

1．タイトル：☆身近な人・もの・こととかかわりながら活動をひろげる子供

2．学校名

新潟県長岡市立宮内小学校

3．実践者名（代表者名）

本多真人

4．学年

第2学年

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

生活　30人

6．単元（本時の学習課題）名

ビー玉ころころランドをつくろう

7．目標(狙い)

・身近な物の特徴などを生かして遊び道具をつくり、工夫していくと遊びがより楽しくなることに気付き、友達と一緒に楽しく遊ぶことができる。　・新聞を作って自分たちの遊びの楽しさを伝えることができる。

8．評価の視点

新聞記者の方から教えてもらったことを使って「ビー玉ころころランド」の楽しさを伝える新聞を作ることができたか。

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数

（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

ビー玉ころころランドをつくろう［生活科：13時間］
ふたばフェスティバル（児童会行事）準備・活動［学級活動：2時間、児童会行事：2時間］　合計17時間

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

①遊ぶ中で見いだした気付きを出し合い、物の特徴などを生かした遊びを考えることができる。（2時間）
②工夫するとより楽しい遊びになることに気付き、友達と一緒に遊びを作ることができる。（6時間）
③自分たちの作った遊びの場にたくさんの人から来てもらえるための新聞を作ることができる。（4時間）
④「ビー玉ころころランド」をオープンしよう。（学級活動：2時間、児童会行事2時間、生活科1時間）

（留意点）
・工夫していくことで遊びが楽しくなることに気づかせ、自分たちの願いを実現させるための方法として新聞作りを取り上げる。
・専門家（新聞記者）から教えてもらうことにより、新聞作りへの見通しをもたせる。
・新聞記者から教えてもらった新聞作りのポイントを想起させながら、何を使って、どのように記事を書くのか考えさせるようにする。

11．児童・生徒の反応、感想・意見

新聞記者から新聞作りについて教えていただいたことをもとに、子供たちは自分の願いを実現するための新聞作りについて、見通しをもって取り組んでいた。写真や見出しの工夫、記事文の中身や書き方、紙面構成などについてグループで話し合いながら、自分たちの遊びの特徴を表した新聞を作ることができた。

12．成果と課題

本単元では子供の「願い」の解決（成就）の過程で、新聞を活用した。本単元において新聞は、子供の生活をよりよくするためのアイテムの一つとして有効に働いた。「願い」の解決（成就）の中で活用することが、低学年にとって新聞活用は自然であり、新聞のよさを子供が実感することになるものと考える。